

健苗育成で活着、初期生育の確保を!!

1. 出芽・育苗期間の管理

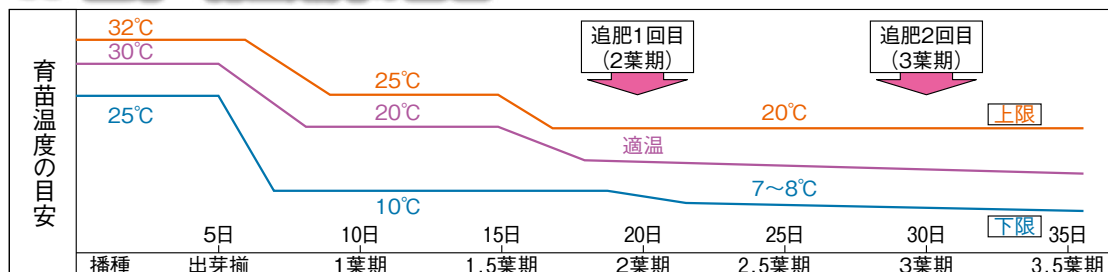
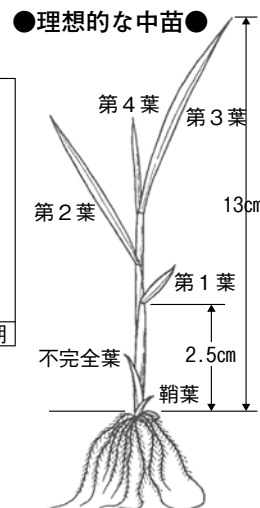


図 育苗温度の目安



① 温度の管理

- 播種後の出芽長は0.5cm（中苗の場合）を目標とします。目安は、加温出芽（育苗器使用）では2日程度、無加温出芽（シルバーポリ等使用）の場合は5日程度です。出芽長を伸ばしすぎると出葉が遅れやすくなるので注意が必要です。
- 細菌病等の助長を防ぐため、出芽までの温度は32°Cを超えないようにし、出芽後の再被覆は行わないでください。
- 出芽後～2葉期頃までは、最高気温25°C以下、最低気温5°C以上を保ってください。2.5葉期を過ぎたら、特に寒い日でもない限りハウスを開放し徐々に外気温に慣らしてください。

② 水の管理

- かん水は早朝を基本とし、遅くとも午前中に行ってください。かん水は十分量行い、回数はできるだけ少なくしてください。

③ 育苗期の追肥

- 苗の窒素濃度は移植後の活着力に影響を与えます。本葉2葉期と3葉期にそれぞれ、1箱あたり窒素成分で1g相当を施用します。追肥後は、散水して葉身に付着した肥料を洗い流し、肥料焼けを防ぎます。

	1箱あたり	100箱あたり
かん水量	500cc	50リットル
肥料	硫安	5g
	液肥2号	10cc
		500g
		1リットル

※育苗ロング肥料を使用した場合は、追肥は不要です。

2. 苗立枯病の防除対策

- 育苗期間の気温は平年並～高く、日照時間がほぼ平年並と予想されていることから、高温性の病害（リゾプス菌・細菌病）に注意して管理を行ってください。
- ピシウム菌・フザリウム菌対策に人工培土を使用しなかったり、床土混和や播種時にタチガレースM剤を使用しなかった場合は、発芽後（発病前）にかん注します。
 - リゾプス菌・もみ枯細菌病対策として、ハウス内温度が25°C以上にならないよう通風管理に努めます。

3. 育苗期いもち病対策

- いもち病の発生は、育苗施設からの発病・感染苗の本田への持ち込みが主要因です。
育苗施設内の稲わら・粃殻を撤去し、育苗期防除と適切な葉いもち防除を確実に行うことで、いもち病の被害を未然に防ぎ、本田防除の省力・低コスト化が図られます。

苗の適正管理に向けて苗代巡回を実施します。

組合員の方からの相談や管理指導のため、苗代巡回を実施します。
 「豊作の手始めは、まず苗づくり」からなので、きめ細やかな管理で健苗育成に努めましょう。

※各地区における集落ごとの巡回時間・集合場所については、外務で配られます資料を参照してください

開催日時

4月24日(月)	能代地区
4月25日(火)	能代地区
4月26日(水)	能代地区
4月27日(木)	二ツ井地区
4月28日(金)	二ツ井地区
5月1日(月)	藤里地区
5月2日(火)	藤里地区